

| | | |
|-------|---|---|
| コース種類 | ベーシックコース（夏＋冬） | アドバンスドコース |
| コース時間 | （座学 24 時間、実技・実践 16 時間）×2 | 座学 24 時間、実技・実践 16 時間（予定） |
| 目的 | 傷病者の生存率を下げない・後遺症を減らす。 遭難頻度の高い傷病を学び遭難予防に生かす。 | 基礎コースの習得目標の、知識を補充し技能精度を高める。 環境への理解を深め、それらの状況下での傷病者の対応を学ぶ。 予防のための実践能力を身につける。 |
| 習得目標 | 基本的な体の構造を理解する、特に心臓、肺、気道。 3SABCDE を 1 人で最後まで実施できる。 医療施設へ至急搬送する必要のある人を判断する事ができる。 救助到着まで重症者をどのように処置して待機するかを学ぶ。 できる限り安全に事態に対応することを学ぶ。 適切なゴール設定、退避・救助の計画をたてる。 不利な環境要因に気づくことができる。 | 正確に自信を持ってスキルフルな 3SABCDE を実施する 評価（A→B→C,命の連鎖）の背後にある原理を理解できる。 生命の危機に及ぶ異常を、見分け、できるだけ迅速に対応することができる 外傷や病気の、兆候と症状を確認することができる 傷病者対応に伴う精神的問題に気づく 複数の傷病者のマネージメントの理解と簡潔なトリアージを理解する |
| 習得項目 | 基礎解剖 生命兆候の評価（気道、呼吸、循環、意識） 心肺蘇生（AED を含む） 3SABCDE の流れ 疾患概要の理解 内臓損傷（胸腹部） 内科疾患（虚血性心疾患、脳卒中、てんかん、糖尿病） 外傷（頭部、脊椎、骨盤、多発、四肢、創傷、刺咬傷） 疲労と脱水 ショック、アナフィラキシーショック | 生命兆候の確実な評価（気道、呼吸、循環、意識） 有効な心肺蘇生（AED を含む） 適切でスキルフルな 3SABCDE 傷病者の移動・搬送 疾患の理解を深める 致命的外傷（内臓損傷、頭部、脊椎、骨盤、多発） 致命的内科疾患（虚血性心疾患、脳卒中、てんかん、糖尿病） 疲労と脱水 ショック |

| | | |
|-----------------|---|---|
| | <p>熱と寒冷の影響（熱中症、低体温症、凍傷、溺水、雪崩埋没）</p> <p>環境関連（落雷、高山病）</p> <p>傷病者の体位</p> <p>病歴（既往歴、罹患中の病気、内服薬）</p> <p>救助（通信、報告、移送、退避計画）</p> <p>法規</p> <p>ファーストエイドキット</p> | <p>環境関連疾患の理解を深める（落雷、高山病）</p> <p>熱関連疾患</p> <p>寒冷傷害（低体温症、凍傷、溺水、雪崩埋没）</p> <p>高山病</p> <p>動物・植物</p> <p>紫外線問題</p> <p>水環境（沢、キャニオニング、ケープ）</p> <p>渡航・遠征関連</p> <p>旅行者下痢</p> <p>ワクチン</p> <p>野外や渡航活動での感染症</p> <p>水の消毒</p> <p>薬・酸素、ファーストエイドキット</p> |
| <p>コアカリキュラム</p> | <p>1. 3SABCDE</p> <p><u>SS 安全・状況</u></p> <p>現場の安全、傷病者の位置での傷病者と救助者の危険、に気づく</p> <p><u>S 頸椎・脊椎</u></p> <p>基本的な解剖と生理を理解する</p> <p>固定（頸椎・全脊椎）の必要性と適応を理解する</p> <p>頸椎固定ができる</p> <p><u>A 気道</u></p> | <p>1. 3SABCDE</p> <p>評価（A→B→C,命の連鎖）の背後にある原理を説明できる</p> <p>早期の酸素投与の重要性を理解する</p> <p>正確に迅速に実施できる</p> <p>実施した行為の正当性を説明できる</p> <p><u>SS 安全・状況</u></p> <p>現場の安全、傷病者の位置での傷病者と救助者の危険、に気づく正確に自信を持って実施する</p> <p><u>A 気道</u></p> |

気道の重要性を理解する
基本的な解剖を理解する
気道閉塞とその原因に気づく
気道確保ができる（窒息解除、頭部後屈—顎先挙上、下顎挙上）

B呼吸

呼吸のメカニズムを理解する
呼吸を評価し異常に気づく事ができる
有効な人工呼吸ができる

C循環

基本的な解剖と生理を理解する
ショックとは
ショックの種類とその原因を理解する
循環を評価し異常に気づく事ができる
外傷患者の出血に気づくことができる
一般的な止血処置ができる
有効な胸骨圧迫ができる
AED を使う事ができる

D障害

中枢神経系の基本的な解剖を理解する
中枢神経機能（意識レベル）の評価と、異常に気づくこと

気道の基本的な解剖、生理、重要性を理解する
簡潔で適切な手技で気道確保ができる

B呼吸

簡潔で適切な手技で人工呼吸ができる

C循環

評価（A→B→C,命の連鎖）の背後にある原理を説明できる
循環を評価し異常に気づく事ができる
ショックを予防する努力ができる
有効な胸骨圧迫ができ、迅速に開始できる
AED を適切に使う事ができる

D障害

中枢神経機能（意識レベル）の評価と傷病者の体系的評価が適切にできる
致命的となりうる異常を判断できる
一般的な処置原則を理解し、実施できる

ができる
傷病者の体系的評価を実施し（頭からつま先、前から後）
緊急を要する異常に気づくことができる
一般的な処置原則を理解し実施できる

2. 病歴（AMP）

A（アレルギー）M（薬）P（病気）歴を聴取する。

3. 体位

回復体位の重要性を理解する
回復体位をとれる
足の挙上体位がとれる
上体（頭部）の挙上体位がとれる

4. 外傷入門

外傷や病気の、兆候と症状を確認する
一般的な処置原則を理解する

外傷

外傷後の傷病者を評価できる
頻度の高い傷害を理解する
怪我をした傷病者の処置を実施し説明できる
感染のリスクと予防的な対応を理解できる
外傷患者の”包み方”と病院前処置を理解する

2. 病歴 AMP

AMP 歴を聴取する。その必要性を理解する。

3. 移動・搬送

傷病者の移動方法を理解し、実施する
傷病者の搬送手段を理解し、実施する

4. 外傷各論

外傷

外傷時の傷害のメカニズムの意味を理解する
外傷後の傷病者を評価できる
起こりうる傷害と傾向の意味を理解する
怪我をした傷病者の処置を実施し説明できる
感染のリスクと予防的な対応を理解できる
外傷患者の”包み方”と病院前処置を理解する

頭部

頭部外傷に引き続く脳や周囲の構造への病理学的変化を

| | | |
|--|---|---|
| | <p><u>頭部</u></p> <p>頭部外傷に伴う兆候と症状を説明できる</p> <p>頭部外傷に引き続きおこる変化を理解する</p> <p>意識レベルを評価できる</p> <p>頭部外傷の処置を考えることができる</p> <p><u>胸部</u></p> <p>胸部外傷に伴う兆候と症状を説明できる</p> <p>胸部外傷の処置を考えることができる</p> <p><u>腹部</u></p> <p>主要な腹部臓器の解剖を理解する</p> <p>ショック患者の腹部外傷の重要性を理解する</p> <p>腹部外傷の処置を検討しうる</p> <p><u>脊椎</u></p> <p>脊椎の正常解剖を理解する</p> <p>脊椎損傷に伴う兆候と症状を説明できる</p> <p>脊椎損傷の処置を検討しうる</p> <p>脊椎損傷患者の固定と取り扱いを説明し実施できる</p> <p><u>骨盤</u></p> <p>骨盤骨折の重要性を理解する</p> | <p>理解する</p> <p>頭部外傷に伴う兆候と症状を説明できる</p> <p>意識レベルを評価できる</p> <p>頭部外傷の処置を検討しうる</p> <p><u>胸部</u></p> <p>胸部外傷時に起こる肺と胸部の病理学的変化を理解する</p> <p>頻度の多い怪我を理解する</p> <p>胸部外傷に伴う兆候と症状を説明できる</p> <p>胸部外傷の処置を検討しうる</p> <p><u>腹部</u></p> <p>主要な腹部臓器の解剖を理解する</p> <p>ショック患者の腹部外傷の重要性を理解する</p> <p>腹部外傷の処置を検討しうる</p> <p><u>脊椎</u></p> <p>脊椎の正常解剖を理解する</p> <p>頻度の多い怪我を解説する事ができる</p> <p>脊椎損傷に伴う兆候と症状を説明できる</p> <p>脊椎損傷の処置を検討しうる</p> <p>脊椎損傷患者の固定と取り扱いを実施し説明できる</p> <p>頸椎カラー・担架などの医療資機材を使用できる</p> |
|--|---|---|

骨盤骨折に伴う兆候と症状を説明できる
骨盤骨折の処置を検討できる

四肢

四肢の正常解剖、特に、骨と臨床的に重要な血管と神経に言及し理解する。

軟部組織

創傷、捻挫、挫滅の評価・処置を検討できる

骨折

骨折の兆候と症状を説明できる
傷害肢の評価を説明し実施できる
骨折の合併症を理解する
骨折の処置を説明し実施できる

火傷

火傷による傷害を理解できる
火傷の評価を説明できる
火傷患者の対応を討議する

骨盤

骨盤骨折の重要性を理解する
骨盤骨折に伴う兆候と症状を説明できる
骨盤骨折の処置を検討しうる

四肢

四肢の正常解剖、特に、骨と臨床的に重要な血管と神経を理解する。

軟部組織

創傷、捻挫、挫滅の評価・処置を検討できる

骨折

骨折の兆候と症状を説明できる
傷害肢の評価を説明し実施できる
骨折の合併症を説明できる
副木の適応を含め骨折の処置を説明し実施できる

耳・目

異物への対応ができる
鼻出血への対応ができる

火傷

火傷による傷害の重要性を理解できる
火傷患者の対応を討議する

5. 環境問題入門

傷病者への熱と寒冷の影響を理解する
低体温症の可能性に気づく
低体温症の重症度を評価できる
低体温症を伴う傷病者の正しい対応を説明し実施できる
手足の寒冷傷害を理解する
熱関連疾患を理解する（熱射病、熱疲労）
落雷の重大性を知る
溺水の対応を理解する
雪崩にまきこまれた傷病者の基本的な医療対応を理解する
刺咬傷の対応を説明できる

6. 病気入門

頻度の高い病気の病因と判断を検討できる
病気の評価と処置を説明し実施できる

虚血性心疾患（冠動脈疾患）

心臓の基本的な解剖と病気に至る過程を理解する
狭心症の一般的な症状と対応を説明できる
心筋梗塞に気づき対応できる

喘息

急性喘息発作の特徴を述べ、重症発作の特徴に気づくこと

5. 環境問題

低体温症の予防を実践する
低体温症の重症度を評価し適切な対応を説明し実施できる
手足の寒冷傷害に対応できる
熱関連疾患を理解する（熱射病、熱疲労）
落雷の重大性と対応を知る
冷水に浸水した場合の影響を説明できる
溺水の対応を理解する
雪崩埋没者の体の変化と基本的な医療対応を理解する
動物攻撃での対応を理解する
水環境での救助と救助が長引いた場合の影響を認識させる

6. 病気各論

頻度の高い病気の病因と判断を検討できる
病気の評価と処置を説明し実施できる

症状から緊急性を検討できる

胸痛
息切れ
意識レベルの変化
腹痛
嘔吐
頭痛
めまい

ができる

急性喘息発作の処置と対応を説明できる

糖尿病

血糖値をコントロールする基本的なメカニズムを理解する

低血糖の特徴を理解する

低血糖の対応を説明できる

高血糖の可能性に気づく

アナフィラキシー

アナフィラキシー反応の特徴と頻度の高い原因を討議できる

処置を説明できる

7. 救助（通信、報告、移送、退避計画）

適切なゴール設定ができる。

救助要請の判断ができる。

救助要請時に適切な報告ができる。

退避・救助の計画をたてることができる。

正確でわかりやすく適時に記録を取る重要性を理解する

虚血性心疾患（冠動脈疾患）

心臓の正常解剖と虚血性心疾患に至る病気の過程を理解する

狭心症の一般的な症状と対応を説明できる

心筋梗塞に気づき対応できる

めまい

めまいに気づき一般的な原因を説明できる

めまいの対応を説明できる

喘息

急性喘息発作の特徴を述べ、重症発作の特徴に気づくことができる

急性喘息発作の処置と対応を説明できる

糖尿病

血糖値をコントロールする基本的なメカニズムを理解する
糖尿病の通常の治療を理解する

低血糖の対応を説明できる

高血糖に気づく

アナフィラキシー

アナフィラキシー反応の特徴と頻度の高い原因を討議でき

る

処置を説明できる

中毒

中毒の可能性に気づく

中毒患者の対応を説明できる

7. 渡航・遠征関連

旅行者下痢を理解し、対応を知る

ワクチンの必要性を理解する

野外や渡航活動に伴う感染症を知り、予防と対応を知る

水の消毒の必要性、方法を知る

8. 薬（医療ガスを含む）など

山岳救助で有用な薬と酸素を理解する。（薬剤は、薬剤リストを参照。）

薬剤の、禁忌、副作用を理解する

患者情報の書類作成の重要性を理解できる